

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	四つの目標を掲げ、実現に向け、精進している。 1、家族にとって実家と思える所。 2、誰もが安心して暮せるお家。 3、みんなが笑って暮せるお家。 4、誰もが来訪しやすいお家。		地域の方に、積極的にボランティアとして参加してもらい、社会的交流を通じて、ここで「生活する・関わる」という意識付けをしていく。今後も多彩なボランティア活動を展開してもらえるよう、地域に対して、職員は常に関心を持っている。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	誰もが来訪しやすい親しみのあるグループホームを目指して、管理者と職員は、笑顔と心地よい声掛けを、すべての人に提供し、「来て良かった」「また来たい」と思ってもらえるように、心掛けている。また、建物の構造的特徴にも、開放的雰囲気をも大切に作られている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	7/27 江別市民夏祭り(鳴子祭り)に初参加、利用者・職員・家族・ボランティア、総勢50名で、野外ステージ・路上でヨサコイを踊る。 9/21 施設の祭りで、グループホームの手作り作品のバザーをしたり、ステージで日頃の活動の披露をする。(カラオケ・大正琴・ヨサコイ踊り)		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	遊休地(農地)を、職員はじめ隣接のマンション住民にも声をかけ、畑作りを楽しんでいる。住民さんとは、畑での挨拶、作物の交換や寄贈、行事ボランティアとして関わって頂いている。		隣接のマンションの方や、近隣の方ともっと広く関わっていきたい。例えば、地域の老人クラブに参加出来るなら参加したい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の方には、法人独自のボランティア組織である「ひだまりの集い」の一員として、関わって頂いている。曜日毎に、多様な活動をしてもらう。		上記の如く、地域の老人クラブには加入していない。また、去年は、地域の盆踊りや夏祭りのイベントに参加を考えていたが、諸所の事由により実現できなかったため、今年は是非参加できるものにはしてみたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	畑を解放して、耕作の喜びを体感してもらったり、施設の祭りの際には、多くの出展をして、地域住民の方に喜んでいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		平成21年度は、5月から2ヶ月に一度の開催を目指したい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		権利擁護や成年後見制度は、今後の認知症介護にとって重要な課題と考えられるので、次年度は研修に参加できるようにする。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		入所にあたっては、利用者や家族等と面接(説明)の時間をゆっくり設け、契約書の事項を読み上げ、説明し、理解を得られるように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者と職員は、コミュニケーション良好の様で、特別な機会を設けることはしていないが、潜在的な要望・要求が表出できるような方法を今後は考えていきたい。		傾聴ボランティアに関わってもらい、潜在的な要望を聞き取ってもらい、或いは、サービス運営推進会議に参加してもらい、利用者の視点からの意見を言って貰える場を検討していく。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、預かり金の収支報告とともに、グループホームの広報「ひだまり通信」を送り、利用者の暮らしや、職員の動向等が判るように努めている。また、健康状態に関しては、看護師から、面会時等に、詳細に説明している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在はサービス運営推進会議に参加されているご家族の方が、忌憚無くご意見を言って下さっていると(皆の代表のような形で)考えるので、都度回答させて頂いている。また、家族も参加するような行事の場合には近況報告や質問等を受ける時間を設けている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度の全体会議の際には、いろいろな意見が出る事を期待している。また、管理者の他に、介護主任を配置し、会議の席では発言出来ないような方や、意見も、日頃から話し合える環境を設定している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	翌月の勤務表作成時に、行事・理美容・老人クラブ送迎・通院介助が判明していれば、相応な人員を配置できる。また、夜間の急変時には、速やかに駆けつけられる職員がいる。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人事業が複数ある事から部署間異動もありうる。しかし、頻度は1年に一度くらいである。但し、ユニット間の異動は不定期ながら年に数度実施している。開設時以来、二つのユニット間は、事ある度に一体的に活動しており、異動による利用者間の混乱・動揺はあまりないと考えられる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>20年度は、職員育成の為に研修計画が不備であった為、外部研修に参加する機会を頻りに設ける事が出来なかった。</p>	<p>法人内部での各委員会主催の研修会には極力参加できるよう、広報や時間調整に努めている。今年度は、感染予防・褥瘡改善対策・ストレスへの対応に参加している。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>江別市内の13のグループホームが集う会「あおいの会」があり、定期的に意見や悩みを共有する機会がある。また、実績としては、12月10日に、利用者を交えた交流会が開催され、3月8日には、「あおいの会」と地域包括主催で「市民の為に認知症講座」を開催する。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>従来、職員の休憩場所が定かではなかったが、環境整備し、休憩しやすいよう配慮したり、法人内部での環境衛生委員会では、ストレス対処の研修会を企画したりと、職員の働きやすい環境作りに努めている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>体調管理やリフレッシュ出来るよう、事前の有給休暇の申し出にはほぼ応える形で、勤務表作成している。また、年に2度程、個人面談を実施し、個々の努力に対する評価を提示するよう努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所相談から利用に至るまでの過程において、相談経過は、本人よりも家族との面接がほとんどである。しかし、入所確定後からは、本人とも面接させていただき、利用に際しての不安の軽減に努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族は来所時、或いは電話での相談時には、多くの不安や悩み、或いは疑問を抱えている事が多いため、面接時には、可能な限り、よく相手の話を傾聴し、一番大きな問題点は何か、或いは、家族が求めている答えは何かを考えながら、不安の払拭に努めている。また、公平な機会・選択の自由という観点から、本人にとっての適切な場所という意味で、他のグループホームや、時には施設も紹介している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。」	相談内容を傾聴する段階において、本人にとってグループホームが妥当なのか、疑問視されるような場合には、他サービスを紹介したり、直接連絡したり、資料を提供したりしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に来所された場合には、その折に、施設内を案内、職員を紹介、時には他利用者も紹介している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に調理・裁縫・畑の収穫物の作業をする際には、自然な形で、「おばあちゃんの智恵袋、的知識や話題を話し合っている。それが相互に良い刺激となっている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族参加の行事等を行なう事で、家族とのコミュニケーションが構築され、利用者を核とする、支えあいが実感できる。今年度は鳴子祭りに参加したが、その折にも、協働して利用者を支援している、職員も家族も同一の視線上にケアしていると実感出来たのではないかと考える。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族が来所された際には、本人の近況報告を行い、家族が関わってない時の事もわかるように情報提供する。また、利用者の若い時・活躍している時代の話等を聞き、グループホームでのケアに生かせるようにする。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所前に通っていた老人クラブ、美容室、病院等には出来る限り送迎して、入所前の関係性の維持に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	相互の部屋に行き来する場面や、フリースペースでの談笑時には、さりげなくお茶を持っていき、ご近所同士のお話という雰囲気大切に。また、趣味や嗜好を共に出来る人同士を意図的に引き合わせて楽しめるよう援助する。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	関係を断ち切らない取り組みを意識して行なっている訳ではないが、利用終了してもある時期までは連絡を取り合う事がある。それは、必要情報の提供だったり、文章の発送だったり、時候の挨拶等もあるが、永続的關係性は難しい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前後の家族も含めた面接時点から、本人の思いや意向を汲み取るよう努め、日々の生活においては、日常の会話や行動からも何を考え、求め、望んでいるか、把握しようとしている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時には面接を家族・利用者へ実施し、情報把握に努め、知りえた情報は、職員間に共有する為に、個別記録や連絡ノートに随時記入していく。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	総合的把握という観点からは、個別記録やケアプランに包括され、それが日々のケアの基底となる。また、日常の暮らしの中での、バイタルチェックから食事・水分・排泄・睡眠状況等の日々の記録から判断される事も多い。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々のミーティングや毎月のカンファレンスそしてケアプランへの反映と、利用者の日常生活での言動や、家族の視点・職員のケアからの気付き等を含めた物である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入所直後は言動も変動しやすい為、一ヶ月経過後に見直しをかける。また、カンファレンスは3ヶ月に一度実施できるようローテーションしているので、変化があれば、都度の見直しが出来る。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別記録は、利用者の言動・体調・活動、また、家族との関係等、総合的に記録されている。記録者も介護・看護・計画作成と皆で記入し、情報の共有に努めている。介護計画の見直しの際には、参考となる内容になっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人本体が隣接しており、いろいろな面で刺激を受けられる環境にあり、利用者のサービスに直結していると考え。ボランティアとの交流・行事・他者交流・喫茶の活用等が上げられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域住民によるボランティア活動や、音楽サークルの招待による、公民館へ出かけてのコンサート鑑賞等。		利用者の希望があれば、公民館の趣味の講座に通ってもらいたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	江別市内のグループホームが参集して交流会を実施し、他のグループホームの夏祭りに遊びに行ったり、パークゴルフ場のあるグループホームで互いにプレーしたりという交流はある。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの職員には、サービス運営推進会議に出席してもらっているが、長期的視野に立った、権利擁護も含めた活動は実践出来ていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員も1名いるが、かかりつけ医のクリニックの看護職員も利用者の健康面についてよく理解しており、困った時には、相談し、適切なアドバイスを受ける事が出来る。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	隣接するクリニックの医師が、グループホームの協力医として、他グループホームも診ており、認知症に対して深い見識を示し、適切なアドバイスがいただける。看護師も利用者が不安に陥らないように、優しく接してくれる。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	開設以来、看護師が配置されており、夜間の危急の相談にも、適切に対応してくれる。又、隣接クリニックの看護師も利用者の状況を把握しているので、適切なアドバイスがいただける。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、出来る限り、家族から医療情報を教えてもらい、状況に応じ同席させてもらいながら、経過によって柔軟な対応が出来るよう家族も交え情報交換等を行う。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化の予見ある場合には、かかりつけ医と逐次看護師を通じて相談し、家族に医師からの説明を行なっている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所の「出来る事」「出来ない事」は事業所だけの問題ではないと考える。医療面については、かかりつけ医の考え方を尊重している。医師の判断をご家族に提示するような場を設定している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えには本人の負担が回避できないと考えられる為、少しでも軽減できるよう、多職種による情報交換を心掛けている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者の尊厳を損なわぬよう、職員は言動に節度ある対応を、心掛けている。また、個人情報保護法に則った利用者への対応を図っている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	各人の症状に応じたコミュニケーションを図るようにしている。言語も簡易な表現や繰り返し、時にはジェスチャー等も活用して行なっている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者から直接の要求があるという事はあまり無いので、その方の言動や状況から推測しながら働きかけ、その人らしい要求をその人のペース・リズムに合わせて実現するように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	なじみの店があれば送迎して連れて行く。外出して疲労少ない方であれば、地域の美容室へお連れする。それが困難な時には、訪問理美容を利用している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	平常メニューは既に決まっているが、日頃の会話や気付きからメニューを変更する事もある。また、月の行事食には、利用者の嗜好を反映したメニューで、一緒に下さりえしたり、盛付けしたり、後片付けしたりする。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	病気で禁止されている訳でなければ、喫煙や飲酒は、場所限定で可能である。お菓子・果物等も食べ過ぎない程度であれば、利用者が買って来ても、家族が持参しても構わない。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄は自力で可能でも、清潔の確保が困難になっている方が多いので、排泄後は必要に応じ、陰部の清拭等を実施している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は午後から、人数は2～3人というおおまかなルールはあるが、それも必ずではない。その時の状況下で柔軟に対応できるようにしている。また、個人の負担であるが、入浴を楽しめるよう、シャンプー・リンス・ボディソープ等は、好きなものを使う事も可能である。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間等は各自異なり、また曜日によっても(お気に入りのテレビ番組のある日・無い日)就寝時間は異なる。また、午睡も体力低下を補う意図で行なう人は別として、自由である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お掃除(モップ掛け、掃除機、家具・手摺りの拭き掃除)や、雑巾縫い、編み物、ゴミ箱作り等、出来る事は依頼して手伝って貰う。また、老人クラブや行き着けの美容室に出かける事の支援をしている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設内での売店や喫茶、近所のスーパーへの買い物、或いは美容室へ行く際には、見守りの下、お財布を持ってもらうように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬場は行き先が限定されるが、夏場は個別・少人数での散歩や買い物に出かけられるよう努めている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	夏場の月毎の行事は外へ出るような行事を企画している。お花見ドライブ・鯉のぼり見学・ヨサコイ参加・運動会応援等。また、好天の日は、ホームの前で、お茶飲み会をして、遊びに来た家族が合流する事もある。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	携帯電話を有していても自らかけることが少ない方へは、担当の職員が定期的に兄弟・姉妹に連絡するよう促したり、支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時間は幅広く設定しており、来訪者が自室だけでなく、他の場所でも談笑できるようフリースペースもある。また、話題がつながるよう時折、職員から利用者の近況報告もしたりする。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	抑制廃止委員会等での研修や、外部研修の受講、パンフレットでの啓蒙に努めている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関は開錠している。常に開放的空間を意識し、誰もが気軽に訪問して欲しいという理念がある。また、プライバシーに配慮しており、個室は内側から施錠できるが、外側からは施錠できない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	定期的巡回や、職員の目が一箇所に集中する事無く、調和良く分散し、利用者に目が届くよう、勤務体制を組んでいる。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な物、全てを排除するのではなく、生活実態のある環境整備に心がけている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的巡回や、見守り・誤薬防止マニュアル作成・緊急時対応・防火訓練を定期的に実施して事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や異変時の初期対応マニュアル・連絡網の整備を行い、それらを職員が閲覧できるところに配置している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	緊急連絡網の伝達訓練は年に2度行い、異変時にはすぐ駆けつけられるよう訓練している。また、利用者も含めた避難訓練も、年に二度実施して、落ち着いた行動ができるよう努めている。災害時の避難場所は、向いの中学校グラウンドであり、中学校とは総合学習などでの定期的交流がある。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入所時の説明場面で、体調不良時の対応や、事故発生時の対応については、あらかじめお話し、家族が不安感少なくなるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>インフルエンザやノロウイルス等の発生時期になると、感染予防委員会が、再確認の意味合いで、手洗い・嗽の励行を朝礼やサイボウズで発信し、また研修会も実施する。マニュアルも作成し、皆が閲覧できる場所に置いている。冬期間は、加湿器を使用したり、洗濯したバスタオルを干すなどして、乾燥を防ぐようにしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所・調理用具は毎日清掃している。冷蔵庫には、一日分の食材しか置かないようにしている。食材は主に、指定二業者から、毎日配達してもらい、台所とは別の食在庫に保管して、衛生管理に努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関にはハザードを設け、雪や雨を防ぐ事が出来、尚且つ視界がじょじょに開くような開放部を設置、出入り口は、引き戸・フラット仕様で、夜間以外は、開放性高くなっている。中玄関には、ベンチを設置、靴の脱着しやすい仕様となっている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は、開放性を重視し、光や空気の流れが良いよう配慮している。居室廊下側には障子窓があり、中廊下が暗くならないよう配慮している。また、建物両サイドには、フリースペースを設け、園芸鉢物を置いたりして落ち着いた空間を演出している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>上記のとおり、建物両サイドにフリースペースがあり、一人になれたり、気のあった2～3人で談笑したり出来る場所がある。家具も、和風タイプ・洋風タイプとある物を活用して、雰囲気異なる場所となっている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>出窓が各室あるので、視覚的には実態より広く感じられると思う。入所前に、家族と利用者がみえて、家具や仏壇の配置を相談している。また、毎日、職員が清掃している為、清潔も保持出来ていると考える。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>感染予防の為にも換気は重要である為、掃除の際には換気に努める。また、利用者がリビングに集中している時には、各居室を一斉換気する。温度は利用者の体感温度がまちまちの為、一般的適温を心掛けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2/3くらい</u> 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p><u>毎日ある</u> 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2/3くらい</u> 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2/3くらい</u> 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2/3くらい</u> 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2/3くらい</u> 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2/3くらい</u> 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 <u>家族の2/3くらい</u> 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p><u>ほぼ毎日のように</u> 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている <u>少しずつ増えている</u> あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><u>ほぼ全ての職員が</u> 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><u>ほぼ全ての利用者が</u> <u>利用者の2/3くらいが</u> 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><u>ほぼ全ての家族等が</u> <u>家族等の2/3くらいが</u> 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 利用者は少しずつ、重度化しており、外出しての社会的交流が、困難になりつつある為、極力、地域のボランティアさんに関わって来ていただき、利用者の健康維持に貢献してもらっている。多いときには、火曜日から土曜日までほぼ毎日、何等かの活動の提供がある。また、建物の回りに草花を植えたり、畑に野菜を植え、利用者作業して貰う時には、自然に囲まれたこの場所を貴重と考える。 職員の年齢層が高く、人生経験豊かな人材が豊富で、利用者とのコミュニケーションの取り方は抜群であり、料理上手な職員ばかりで家庭的雰囲気を提供するにあたり、大きなパワーとなっており、熟年の凄さを痛感している。